

Briefing Transcription

|| 2025 年 6 月期第 3 四半期決算説明会文字起こし ||

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 5 月 15 日 (木)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03

■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ 前年同期と比較して流行の程度は落ち着いているものの、適切な在庫コントロールが奏功し、シェアを向上させつつ、しっかりと売上高を計上できている。結果、インフルエンザ検査キットは引き続き高いシェアを維持しており、新型コロナ単品検査キットは前期と比べてシェアが大幅に伸長した。
- ・ 2025 年 6 月通期の業績予想は、売上高で前期比 4.5% 増の 19,273 百万円、営業利益で同 3.5% 増の 8,308 百万円だが、3Q までの推移は前年の進捗と比較したら保守的に見える。現状、業績予想の修正はなし。
- ・ 栄研化学 <4549> の PER は 29.3 倍、配当利回り 2.38%、ROE5.0% に対して、タウンズのそれは 8.5 倍、5.52%、52.2% であり、株価で 2 倍でも釣り合う。
- ・ 2025 年 5 月 9 日付でプライムへの市場区分変更申請も実施。

株株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

■ 出演者

株式会社タウンズ
代表取締役社長

野中 雅貴様

■ 決算説明



本決算説明資料の構成は、大きく 3 つのパートに分かれています。

構成は前回同様、会社概要、決算概要、通期業績予想等の順に構成されています。

1 点目は、会社・事業の概要です。こちらのパートは、基本的に前回と同じ内容を開示していますが、一部数値などは最新の情報に更新しています。当社は上場して間もないため、基本的な会社説明として、これらの内容を引き続き掲載しています。

2 点目は、進行中の 2025 年 6 月期第 3 四半期の決算概要です。2024 年 12 月中旬から、新型コロナとインフルエンザが同時に流行し、特にインフルエンザの感染が年末年始に急拡大した中で、当社の第 3 四半期累計期間の業績がどのように着地したかをご説明しています。

3 点目は、2025 年 6 月期の通期業績予想等についてです。第 3 四半期を終えた時点では通期業績予想に対して順調に推移していますが、現時点では通期業績を正確に見通すことが難しく、2024 年 8 月 13 日に開示した業績予想から変更していません。業績予想関連の他、株主還元方針から直近のトピックスまでを掲載しています。特に直近のトピックスとしては、今後のタウンズの成長に資するスタートアップ 3 社と資本業務提携を締結した旨を記載しております。

なお、中期経営計画につきましては、足元の事業環境を正確に見極めた上で、様々な取り組みを一貫した戦略としてまとめ上げ、2025 年 8 月の本決算発表のタイミングに合わせて開示させていただきたいと考えております。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明



01. 会社・事業概要	P.02
02. 2025年6月期 第3四半期決算概要	P.11
03. 2025年6月期 業績予想	P.22
04. Appendix.	P.32

2



©TALUNG Laboratories, Inc.

まず、会社・事業の概要をご説明します。

会社概要

社名	株式会社タウンズ (英語名: TALUNG Laboratories, Inc.)		
代表者	代表取締役社長 野中 雅典		
創業年月 設立年月*	1987年4月 2016年4月 (*グループの再編に伴う現法人の設立年月)		
本社所在地	静岡県伊豆の国市神島761番1		
資本金	271百万円 (2025年3月31日時点)		
役員構成 (2025年3月31日時点)	代表取締役社長 野中 雅典 取締役 内山 雅雄 取締役 永井 淳平 取締役 伊藤 政宏	社外取締役 三品 聡範 社外取締役 千塚 理 監査役 遠藤 佳孝 社外監査役 中川 真知子 社外監査役 Caroline F. Benton	
株主構成 (2025年3月31日時点)	上場前からの大株主 創業者: 28.4% 金融機関等: 45.1% 上場後/その他の株主 その他: 26.3%		
事業内容	体外診断用医薬品、研究用試薬等の開発、製造及び販売・輸出入 主要製品は感染症の診断検査キット		
売上規模	18,434百万円 (2024/6期)		
従業員数	342名 (2025年3月31日時点)		
総資産	37,635百万円 (2025年3月31日時点)		
拠点	本社・神島工場、清水町事業所・R&Dセンター、東京オフィス		
主な取引先	スズケン他		



本社・神島工場

清水町事業所・R&Dセンター

3

©TALUNG Laboratories, Inc.

当社の創業は1987年で、創業者は現CEOの野中の父です。

本社兼工場の所在地は、静岡県の伊豆の国市です。その他の拠点として、静岡県清水町にR&Dセンター、日本橋に東京オフィスがあります。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

経営理念

私たちタウンズは、独自の体外診断用医薬品により、人々の生活に安心と潤いを届けます。そのために、技術・知識を集積し、新たな製品の開発、品質改善に取り組み続けます。

診断技術で、安心な毎日を。

何気なく過ぎていくあたりまえの毎日も、
いつもとは違う特別なひとときも。
変えているのは、揺るぎない安心。
私たちタウンズは、独自の診断技術を追求めし、
疾病の診断、早期発見のお手伝いをしています。
ひとりひとりの不安を取りのぞくことで、
世界中で未来への見通しをよくなることで、
安心な毎日を支え続けます。

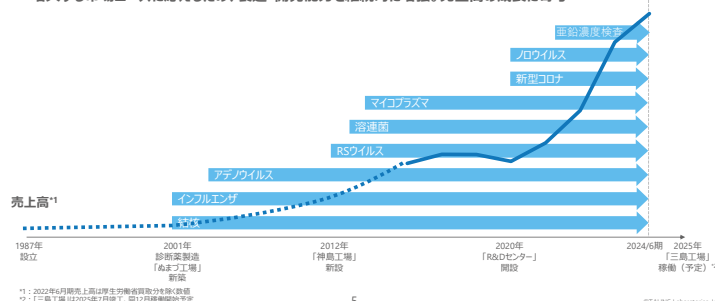
4

©TALUNG Laboratories, Inc.

当社は経営理念として、「体外診断用医薬品（IVD）により、人々の生活に、安心と潤いを届けること」を掲げています。IVD（In Vitro Diagnostics）とは、尿や血液など、人体から採取した検体を用いて、疾患の検査をする製品です。当社はその IVD の中でも、POCT（Point of Care Testing）という「患者のそばで検査され、すぐに結果が出る製品」を主に扱っています。いわゆる抗原検査は、典型的な POCT の一つです。

沿革

- 2000年代初頭から、豊富な抗原検査のラインナップを順次展開
- 増大する市場ニーズに応えるため、製造・開発能力を継続的に増強。売上高の成長に寄与



5

©TALUNG Laboratories, Inc.

当社の沿革ですが、2001年に感染症抗原検査事業に参入したのち、お客様のニーズにお応えしながら、順次製品ラインナップを拡充して成長を続けてきました。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

事業内容

- 主に、感染症臨床検査用の抗原検査キットを開発・製造。インフルエンザを始め、アデノウイルスや新型コロナなど多くの感染症項目において「イムノエース」ブランドの製品を展開
- 血中亜鉛濃度検査キットを皮切りに、慢性疾患等の感染症以外の領域へ進出中。感染症流行に左右されない事業基盤の確立を目指している

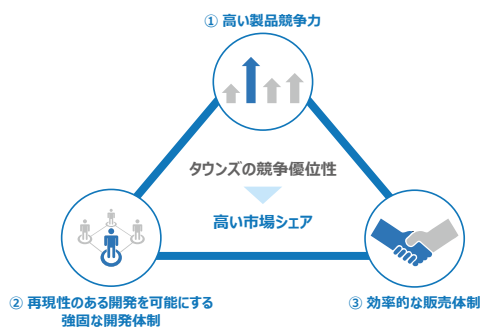
主な製品群



当社の主要製品は、新型コロナやインフルエンザ等の、感染症の抗原検査キットです。

こちらにお示ししているように、幅広い感染症項目をカバーしています。

タウンズの3つの競争優位性

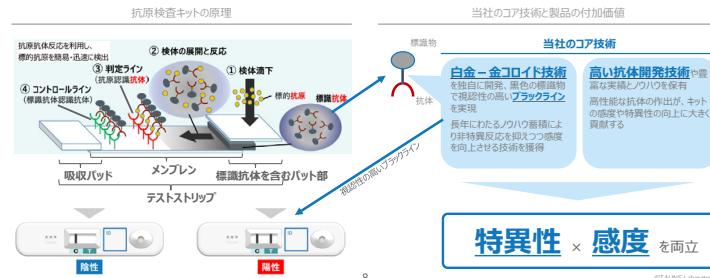


当社の製品が、医療機関から幅広くご支持をいただいている背景として、「製品競争力」「開発体制」「販売体制」の3つの視点から、当社の競争優位性についてご説明します。

決算説明

抗原検査キットの原理・当社技術の強み

- 数多くの自社抗体の開発実績（特許化含む）や、独自技術である白金－金コロイド等の高い技術力を有する
- 技術力を活かし、特異性と感度を両立した高品質な製品を開発。さらには複数感染症間の幅広い検体共用の実現など、医療現場と患者双方にとって価値の高い製品を供給している



まず、当社の主力製品である抗原検査についてご説明します。

左側の図は、抗原検査キットの基本原理を示しています。

図（１）のパッド部には、抗体と、目印になる標識物とを結合した「標識抗体」が浸み込ませてあります。鼻や喉から採取した検体を、図（１）の「パット部」に滴下すると、検体中に含まれるウイルスなどの「抗原」が、パット部の「標識抗体」と、いわゆる抗原抗体反応により結合します。

よって、たとえばインフルエンザ検査キットであれば、インフルエンザウイルスという抗原に対してのみに、高い感度で結合する「抗体」に関する技術が、まずは重要となります。抗原も抗体も、極めて小さいミクロの世界ですが、標識抗体には目印となる「標識物」があらかじめ結合されています。この「標識物」により、ミクロの世界の抗原抗体反応が、「目視」できるようになります。

よってこの「標識物」も、抗原検査キットにおいて非常に重要な技術となります。滴下された検体は、毛細管現象により、図の右から左へと流れていきますが、もし検体中に標的の抗原が含まれていれば、図の（１）から（２）にかけて、「抗原 - 抗体 - 標識物」という３つが結合した状態が形成され、検体は図（３）の「判定ライン」へと流れていきます。

図（３）の「判定ライン」には、更に別の抗体が、ライン上に多数、固定されています。抗原を含む検体が図（３）に達すると、検体中の抗原がライン上に固定された抗体と結合し、「（固定された）抗体 - 抗原 - 抗体 - 標識物」という状態で、ライン上に数多くの標識物が集積します。一定時間経過後に、多数の標識物がライン上に集積することで判定ラインが目視で確認出来れば陽性、判定ラインが見えなければ陰性、と判断することができます。

これが抗原検査キットの原理です。

さて当社は、このような抗原検査キットのコア技術である、「抗体」と「標識物」に関して、それぞれ独自の強固な技術基盤を確立しています。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

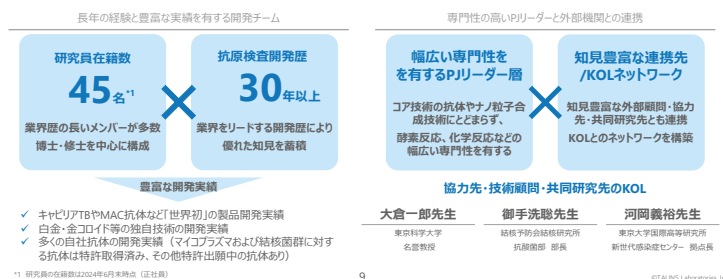
決算説明

抗体に関しては、自社開発に加えて、資本提携先との共同開発を行い、感度と特異性を高い水準で両立した優れた抗体ライブラリーを確立しています。本年においては、抗原検査キットに広く使われているマウス由来の抗体に替えて、独自開発のウサギ由来の抗体を活用し、より高い感度を実現した新型コロナ検査キット「イムノエース[®] SARS-CoV-2 III」を、新たにローンチしています。

抗原検査キットの標識物としては、一般的には「金コロイド」という金の微粒子が使用されており、「金コロイド」は赤色の判定ラインを形成します。これに対し、当社が独自に開発した「白金 - 金コロイド」は、より視認性の高い黒色の判定ラインを形成し、当社キットの高い感度を支えています。当社はこのような技術基盤を活用して、品質の高い製品を供給しています。

再現性のある開発を可能にする強固な開発体制

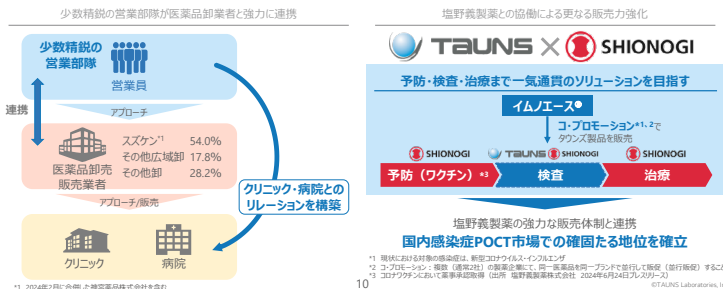
- 豊富な業務経験と高度かつ多様な専門性を有する開発チームが、開発活動を牽引
- 長年の研究開発を通して社内に蓄積されたノウハウに加え、社外からも知見を得ることで迅速かつ革新的な開発を実現



続いて、当社の開発体制についてご説明します。当社はこれまで30年以上にわたり、抗原検査の研究開発に取り組んできました。長年の研究開発で蓄積された各種ノウハウと、様々な専門分野のベテラン研究員、更には社外の知見豊富な研究者との協力体制が、当社の高い技術力の源泉です。これらにより、抗体関連技術や「白金 - 金コロイド」技術などのコア技術の開発をしている他、結核などの抗酸菌検査の分野においては、「世界初」となる製品の開発実績を複数有しています。

商流と営業体制

- 少数精鋭の営業員が、卸業者と強固な協力関係を構築。主要な感染症抗原検査キットで国内トップクラスのシェアを獲得
- 塩野義製薬との協働により、感染症対策において「予防 - 検査 - 治療」まで一気通貫のソリューションを提供、クリニックに強い塩野義の販売力と、病院に強い当社営業員のシナジーにより、国内感染症POCT市場での地位を更に強固にする



次に、当社の販売体制についてご説明します。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

当社の営業員は、10 年以上の業界経験を有するベテランが中心です。少人数体制でありながら、主力製品で国内トップの市場シェアを獲得しており、営業チームの生産性は非常に高い水準といえます。

当社は、スズケン様をはじめとした卸業者を通して医療機関へキットを販売するため、卸業者との協力関係が販促のポイントになります。また当社は 2022 年より、塩野義製薬様と、当社製品の販売に関する協働を行っています。

ワクチンと治療薬を有する塩野義製薬様と、POCT 製品を有する当社の協働により、「予防→診断→治療」まで、感染症対策を一気通貫で行うことができるようになりました。

当社は、塩野義製薬様の販売力を活用することで、国内感染症 POCT 市場における確固たる地位を確立したいと考えています。

INDEX	01. 会社・事業概要	P.02
	02. 2025年6月期 第3四半期決算概要	P.11
	03. 2025年6月期 業績予想	P.22
	04. Appendix.	P.32

ここからは、2025 年 6 月期第 3 四半期累計期間の業績についてご説明します。

2025年6月期 第3四半期累計期間ハイライト

- ✓ 新型コロナに関しては、12月から発生した第12波は過去の流行と比較して規模が拡大しきらずに推移した。結果として第3四半期累計期間の流行規模は前年同期比で約4割程度減少した。当社は、新型コロナ単品検査キットのシェアを大きく高め、流行規模の減少がありながらも前年同期比で同キットの売上を増加させた
- ✓ インフルエンザに関しては、年末に一時観測史上最大の流行水準となったが、第3四半期に入ると急速に流行が収束した。前期は長期間にわたってインフルエンザの流行が継続していたことから、第3四半期累計期間の流行規模は前年同期比で約5割程度減少した。当社はインフルエンザ検査キットのシェアを高めたものの、流行規模の減少により前年同期比で同キットの売上は減少した
- ✓ 新型コロナ、インフルエンザの流行規模はいずれも前年同期よりも減少したものの、コンボ検査キットの市場浸透が進んだこと、長期間にわたる出荷調整を余儀なくされた前期と異なり当期は十分な在庫水準を維持していたことなどから、コンボ検査キットの売上は前年同期を大きく上回り、全社業績をけん引した
- ✓ 第3四半期累計期間の売上高は過去最高を更新。各段階利益は前年同期比で増益となり、利益率も前年同期より改善された。利益率の改善は、相対的に利益率が高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの売上構成比が増加したことが主因

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

2025年6月期 第3四半期累計期間の業績

- 新型コロナ、インフルエンザのいずれも前年同期比で流行規模は小さかったが、当社は十分な在庫を持って流行時の需要に対応したことなどにより高いシェアを実現し、増収増益となった
- 利益率の高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットが売上に占める割合が高まったこと、販管費の水準は前年同期とほぼ同等で推移したことから、各段階利益率は改善した

(百万円)	23年6月期3Q		24年6月期3Q		25年6月期3Q		前期比
	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率	
売上高	12,834	-	16,371	-	17,607	-	7.6%
売上総利益	8,155	63.5%	11,310	69.1%	12,685	72.0%	12.2%
営業利益	4,949	38.6%	8,226	50.2%	9,330	53.0%	13.4%
経常利益	4,940	38.5%	8,249	50.4%	9,296	52.8%	12.7%
当期利益	3,374	26.3%	5,906	36.1%	6,645	37.7%	12.5%
EBITDA	5,422	42.2%	8,732	53.3%	9,864	56.0%	13.0%

13

©TALUS Laboratories, Inc.

当社の 2025 年 6 月期第 3 四半期累計期間の業績は、前年同期比で増収増益にて着地しました。売上高は、第 1 四半期終了時点では前年同期比で小幅に減収となっておりますが、中間期間終了時点で同増収に転じ、第 3 四半期終了時点では増収幅を伸ばすことが出来ました。

また、粗利率の改善により各段階利益率は前年同期比で改善しています。この大きな要因はセールスミックスの変化であり、相対的に利益率の高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの売上高に占める割合が高まっております。新型コロナのみが流行している時期においては新型コロナ単品検査キットが主に用いられましたが、インフルエンザと新型コロナが同時流行している局面においては、医療機関においてコンボ検査キットの選択率が高まっているものと見受けられます。

減価償却費を含む販管費は、前年同期から特筆すべき大きな変化は無く、営業利益や EBITDA についても順調に進捗しております。

主要製品別の売上高（第3四半期累計期間）

- 新型コロナ、インフルエンザのいずれも前年同期比で流行規模は小さかったが、新型コロナ単品検査キットはシェア拡大により売上が増加。一方、インフルエンザ検査キットはシェアを高めたものの、コンボ検査キットに需要の軸足が移ったこともあり、売上は減少した
- コンボ検査キットは、市場規模は縮小、当社シェアは増加。年末年始にかけて行われた一部代理店による在庫確保の動きに適時に対応したことなどもあり、前年同期比で売上を伸ばすことが出来た

(百万円)	23年6月期3Q		24年6月期3Q		25年6月期3Q	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
新型コロナ単品検査キット	7,943	61.9%	3,957	24.2%	4,671	26.5%
新型コロナ/インフルエンザ コンボ検査キット	2,491	19.4%	6,041	36.9%	7,728	43.9%
インフルエンザ検査キット	1,079	8.4%	3,866	23.6%	3,253	18.5%
その他	1,319	10.3%	2,505	15.3%	1,954	11.1%
合計	12,834		16,371		17,607	

14

©TALUS Laboratories, Inc.

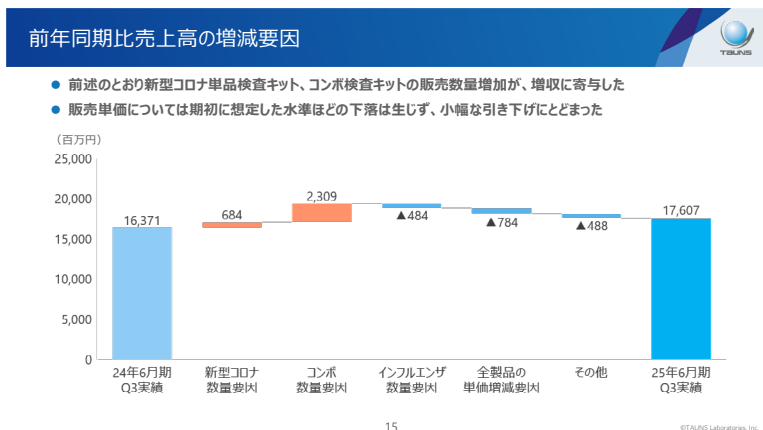
第 3 四半期累計期間における主要製品別の売上高を見ると、新型コロナ単品検査キットとコンボ検査キットにおいては前年同期比増収、インフルエンザ検査キットにおいては減収となりました。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

第3四半期累計期間においては、新型コロナとインフルエンザのいずれも前年の流行規模を大きく下回りました。新型コロナについては、前年同期比で約4割流行規模が小さかったものの、当社は市場シェアを大きく伸長させることで前年同期を上回る販売数を確保しました。インフルエンザについても、第3四半期累計期間における流行規模は前年同期比で約5割小さいものとなりました。年末年始にかけて瞬間的に観測史上最大となるインフルエンザ流行が報道されたこともあり、当期はインフルエンザが大流行したとの印象があるかもしれません。

しかしながら、前期においては長期間インフルエンザが流行していたのに対して、当期は流行期間が短かったことから、累計としての流行規模は前期より小さくなったものです。かかる環境下において、当社はインフルエンザ検査キットの市場シェアを更に拡大させたものの、流行規模の縮小に加えて、検査キット需要の軸足がコンボ検査キットに移ったこともあり、補いきれずに減収となりました。コンボ検査キットについては一定のシェア向上を達成しており、医療機関においてコンボ検査キットの選択率が高まっている中で、しっかりと販売数を確保することができました。



こちらのスライドは前年同期比での売上高の増減要因を説明したものです。インフルエンザ検査キットの数量減少、各製品の単価下落によるマイナス影響がありながらも、新型コロナ単品検査キットのシェア向上による販売数量の増加、コンボ検査キットのマーケット拡大分の着実な取り込みで補って、増収となっています。

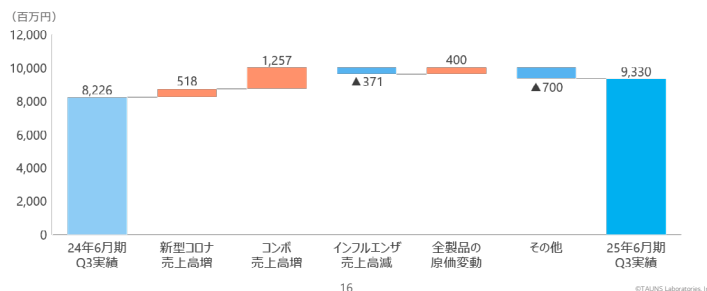
業績予想策定時においては、競争環境の変化から新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの販売単価を、前年通期実績に対して10%程度下落する想定としていましたが、当第3四半期の実績においてはそのような大きな低下は見られていません。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

前年同期比営業利益の増減要因

- 前述のとおり新型コロナ単品検査キット、コンボ検査キットの売上増加が、増益に寄与した
- セールスマックスの改善効果のほか、新型コロナ単品検査キットにおいて、高品質かつ低コストなウサギ抗体を導入した新製品に切り替えたことによる原価低減も、増益に貢献している



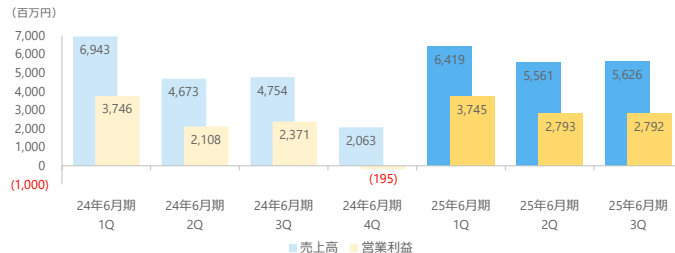
こちらのスライドは前年同期比で営業利益の増減要因をご説明したものです。

主要 3 製品の売上高増減については前述したとおりですが、前年同期と比較すると、より利益率の高い製品の売上構成比が増えたことによるセールスマックス要因も利益を下支えしました。

また新型コロナ単品検査キットにおいては、ウサギ抗体を使用した新製品の投入により、検査精度の向上と原価低減を両立させたことが、営業利益増に一定貢献しております。

四半期毎売上高・営業利益推移

- インフルエンザが夏季に流行し始めた前期と比べると、当期の第 1 四半期の売上高は減少した
- 一方で、後述の通り当期においては十分な在庫量を確保したことで、冬季の検査キット需要拡大に適切に対応することができた。これにより第2四半期、第3四半期の売上高・営業利益は、長期間の出荷調整を強いられた前年同期と比べて拡大している



こちらは四半期ごとの売上と営業利益の推移を一覧化したスライドです。季節性についてご質問いただくことが多いため、新たに設けました。

前期の第 2 四半期及び第 3 四半期においては、製品の供給制約により長期間にわたって出荷調整を余儀なくされたことから、結果として第 1 四半期が突出して大きな売上となりました。当期においては常に一定以上の在庫水準を維持したことから、出荷調整の期間を最小化し、第 2 四半期以降の需要拡大にもしっかりと対応できました。

在庫水準と四半期売上の関係性については、後述いたします。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

主要製品別の売上高 四半期間（1-3月）

- 第3四半期間における新型コロナ単品検査キットの市場規模は前年同期比で5割程度減少。当社シェアは高水準を維持したものの、売上は前年同期比で減少した
- 年末年始のインフルエンザの急速な感染拡大に伴い、コンボ検査キットの売上は前年同期を大幅に上回って着地した。他方でインフルエンザ検査キットについては、当社シェアは高水準を維持したものの、コンボ検査キットへの需要シフトの影響もあり、売上は前年同期と同等にて着地した

(百万円)	23年6月期3Q		24年6月期3Q		25年6月期3Q	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
新型コロナ単品検査キット	755	31.4%	914	19.2%	725	12.9%
新型コロナ/インフルエンザ コンボ検査キット	802	33.4%	1,831	38.5%	3,148	56.0%
インフルエンザ検査キット	571	23.8%	1,177	24.8%	1,173	20.8%
その他	271	11.3%	831	17.5%	579	10.3%
合計	2,401		4,754		5,626	

18

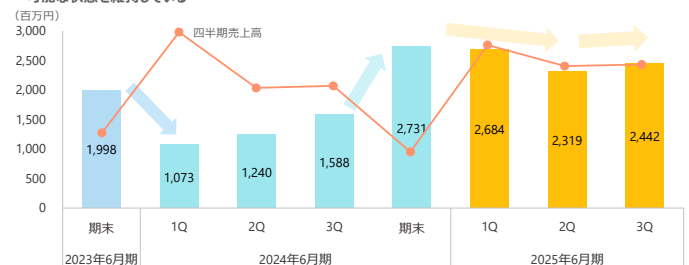
©TALUNG Laboratories, Inc.

こちらは第3四半期間における主要製品別の売上です。

コンボ検査キットの売上は前年同期比で大きく伸長し、全体の業績をけん引しました。長期間に渡る出荷調整を余儀なくされた前期と異なり、安定的な供給を維持したことが売上増に大きく寄与しております。

四半期末在庫水準の推移

- 前期においては、夏季におけるインフルエンザと新型コロナの大流行により在庫水準が急減し、長期間の出荷調整を余儀なくされた
- 一方で当期においては、各四半期末時点において十分な在庫水準を確保しており、突発的な流行発生にも対応可能な状態を維持している



19

©TALUNG Laboratories, Inc.

こちらは四半期末の在庫水準（金額ベース）と四半期売上高の関係性をお示しました。

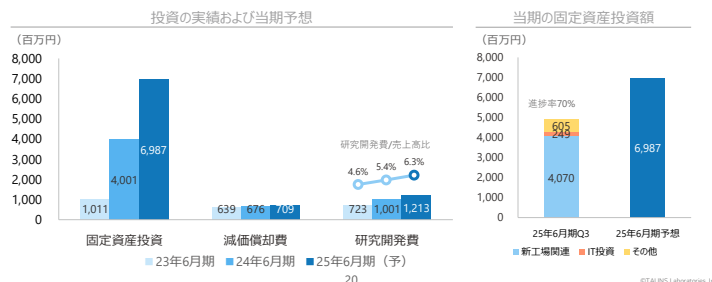
前期においては、第1四半期の急激な需要拡大によって売上が急騰した反面、在庫水準が低下した為に第2四半期以降の需要に対応しきれずに長期間の出荷調整を余儀なくされました。これに対して、当期においては第2四半期以降も十分な在庫水準を維持しており、突発的な需要拡大にも対応できる状態を維持しております。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

投資の状況

- 当期の固定資産投資額は、70億円程度まで拡大を想定
- 新工場関連の設備投資に加えて、ERPなどのIT投資などの戦略的な投資に取り組んでいる



こちらは投資の状況です。

2025 年 6 月期の固定資産投資額は総額で約 70 億円を予定しており、内訳としては前期においても計上した三島の新工場に関する設備投資に加え、ERP などの IT 投資、新工場稼働までの増産投資、神島工場の新倉庫建設、R&D 関連などを想定しています。

研究開発費については、次世代 POCT 技術の「デジタルイムノアッセイ」の研究開発などに伴う費用の増加が主要因ですが、その他にも新抗体開発にかかる費用や、開発本部の全体的な体制強化による人件費増加などを含んでおります。

貸借対照表

(百万円)	24年6月期 3Q	24年6月期	25年6月期 3Q	(百万円)	24年6月期 3Q	24年6月期	25年6月期 3Q
流動資産	18,153	16,915	18,753	流動負債	13,845	10,474	10,849
現金及び預金	8,282	9,424	8,580	買掛金	1,360	1,482	1,296
売掛金	6,071	2,706	4,975	短期借入金	4,500	4,500	4,500
商品及び製品	1,588	2,731	2,442	1年内返済予定の長期借入金	732	732	831
仕掛品	953	846	1,161	未払法人税等	1,559	1,706	1,547
原材料及び貯蔵品	1,183	1,140	1,409	未払消費税等	0	387	542
その他	74	66	183	その他の流動負債	5,693	1,665	2,131
固定資産	12,293	12,345	18,881	固定負債	2,807	5,120	9,113
有形固定資産	7,804	7,905	12,151	長期借入金	1,687	4,307	8,300
無形固定資産	3,771	3,720	3,865	繰延税金負債	922	193	620
投資その他の資産	717	719	2,863	その他の固定負債	198	619	193
資産合計	30,447	29,261	37,635	負債合計	16,652	15,594	19,963
				純資産合計	13,794	13,666	17,672
				負債純資産合計	30,447	29,261	37,635

こちらは貸借対照表の前期末及び前年同期末時点との比較です。

長期借入金と有形固定資産の増加は、主に新工場への設備投資にかかるものです。

また、投資その他の資産は株式会社 KINS と Craif 株式会社への投資等により増加しております。

株株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

INDEX	01. 会社・事業概要	P.02
	02. 2025年6月期 第3四半期決算概要	P.11
	03. 2025年6月期 業績予想	P.22
	04. Appendix.	P.32

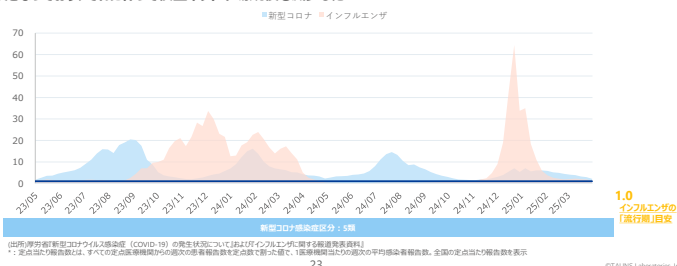
22

©TALUNG Laboratories, Inc.

ここからは、2025 年 6 月期の業績予想についてご説明します。

5類移行後の新型コロナとインフルエンザの流行状況

- 新型コロナの定点当たり報告数を見ると、5類移行後も感染の拡大と縮小を繰り返しつつも、流行入りの目安とされる報告数「1」*を下回ることなく継続しており、常時流行状態にあるといえる
- 第3四半期における新型コロナ流行水準は前年同期比で約5割、インフルエンザの流行水準は約4割減少した規模となっており、それに伴って検査キット市場規模も減少した



こちらの図は、新型コロナとインフルエンザの流行状況を示す、定点当たり報告数の推移です。新型コロナは、23 年 5 月の 5 類移行後においても、流行規模としては拡大と縮小を繰り返しつつも、インフルエンザでいうところの「流行期入り」の目安となる、定点数 1 を常に上回って推移しています。

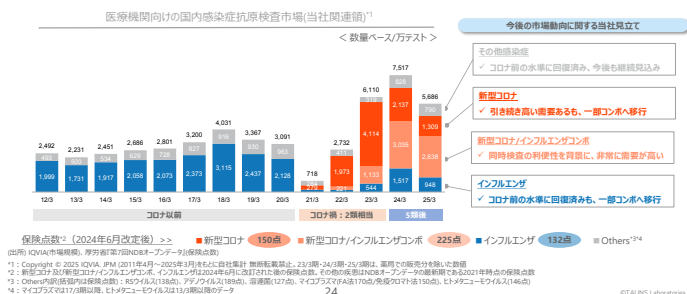
2025 年 6 月期第 3 四半期においては、新型コロナとインフルエンザのいずれも流行規模が前年同期を大きく下回りました。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

コロナ禍を経て拡大した、医療機関向け国内抗原検査市場

- 医療機関向けの国内抗原検査市場規模は、コロナ禍前はインフルエンザを中心に年間30百万テスト前後で推移
- コロナ禍を経て新型コロナ単品・コンボの検査が定着したことで、市場規模は24/3には年75百万テストと大幅拡大した。25/3においては流行規模が下振れし、またコンボ検査へのシフトが進んだことから、単品検査の市場規模は縮小した



こちらは、国内の医療機関向けの、主要な感染症抗原検査キットの市場規模の推移です。

いわゆるコロナ禍の前は、青いボックスのインフルエンザを中心に、年間 30 百万テスト前後の抗原検査がなされていました。

コロナ禍を経て、オレンジの新型コロナや、薄いオレンジの新型コロナとインフルエンザのコンボ検査キットが加わったことで、足元の市場規模は年間 75 百万テストと、コロナ前と比べて大きく成長しています。

特に、新型コロナとインフルエンザのコンボ検査キットの市場規模が急成長しています。

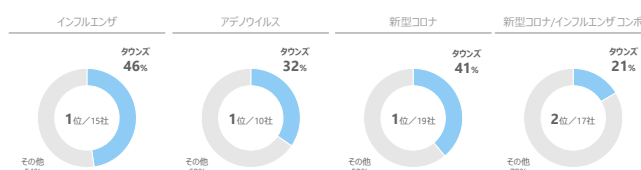
これらを踏まえ、期初に策定した当社の 2025 年 6 月期業績予想の前提として、抗原検査キットの市場規模について、基本的には 2024 年 6 月期と同等程度を想定しています。

そのうえで、2024 年 6 月期における長期間の出荷調整への反省を踏まえ、需要の旺盛なコンボ検査キットを中心に供給体制を更に強化し、市場シェアを拡大することを目指しています。

高い市場シェアと拡大余地

- インフルエンザ、アデノウイルス及び新型コロナの抗原検査キット市場で、当社は国内トップシェア
- インフルエンザ検査キットは引き続き高いシェアを維持しており、新型コロナ単品検査キットは前期と比べてシェアが大幅に伸長している
- 一方で、今期の成長ドライバーに掲げていたコンボ検査キットについては、いまだシェアが回復途上。ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社との販売提携や改良品の投入により、更なるシェア拡大を目指している

主要呼吸器感染症の医療機関向け国内抗原検査キット市場におけるシェア^{*1}



^{*1} : Copyright © 2025 IQVIA, 当社は2025年6月期3年間のシェアを報告するため、JPM (2024年7月～2025年3月) の期間をもとに自社集計 無断転載禁止。シェアの算出方法は当社の当該期間における検査数を全体の検査数(検体数)で割った割合

25

© TALUS Laboratories, Inc.

こちらは、当社主要製品の、足元の国内市場シェアです。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

当社はこれまで継続的に市場シェアを拡大しており、2024 年 6 月期においては、新型コロナ単品検査キット、インフルエンザ単品検査キット、アデノウイルス検査キット等の主要製品において、国内トップのシェアを有していました。足元においても、それらの主要製品が国内トップのシェアを維持しており、新型コロナ単品検査キット、インフルエンザ単品検査キットについてはさらにシェアを伸ばすことができました。

当社の短期的な成長ドライバーの一つとして、相対的にシェアの低いコンボ検査キットのシェア拡大を掲げておりますが、未だ途上にあります。今後はウサギ抗体を使用した改良製品の投入や、ロシュ・ダイアグノスティック社とのコ・マーケなどによる巻き返しを図っております。

業績予想

- 現時点では2024年8月13日に公表した業績予想からの変更なし
- 第3四半期までの業績は堅調に推移する一方で、5月以降の各感染症の流行動向が見通しづらく、第4四半期の業績を正確に見積もることが難しい状況。見通しが立った時点で業績予想の修正が必要と判断した場合には、速やかに開示する

(百万円)	24年6月期 予想 ①	24年6月期 実績 ②	25年6月期 予想 ③	増減 ②/③	利益率
売上高	17,553	18,434	19,273	4.5%	-
営業利益	7,891	8,030	8,308	3.5%	43.1%
経常利益	7,741	7,840	8,316	6.1%	43.1%
当期利益	5,550	5,774	6,019	4.2%	31.2%

業績予想策定にあたり、主に以下を想定

- ✓ コンボ検査キットに関する生産能力の増強、塩野義製薬との提携加速を踏まえ、市場シェアおよび当社売上占めるコンボ検査キットの構成割合が増加する
- ✓ 新型コロナ関連製品において、価格競争に伴う一定の価格低下圧力が発生

26

©TALUNG Laboratories, Inc.

こちらは、2025 年 6 月期の業績予想数値ですが、2024 年 6 月期決算説明資料で開示したものを再掲しています。

第 4 四半期の業績は次回の新型コロナの流行開始時期に大きく左右されるものの、現時点ではその流行開始時期や流行水準を正確に見通すことが難しいことから、業績予想を据え置きました。今後、見通しが立った際に修正が必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

業績予想の進捗

- 通期予想売上高に対する進捗率は91.4%となっており、前年同期の進捗率を小幅に上回っている
- 利益面においては、利益率の高い新型コロナ単品検査キット、コンボ検査キットの利益貢献が大きく、前年同期よりも高い進捗率となった

(百万円)	24年6月期			25年6月期		
	通期実績	3Q実績	進捗率	通期予想	3Q実績	進捗率
売上高	18,434	16,371	88.8%	19,273	17,607	91.4%
営業利益	8,030	8,226	102.4%	8,308	9,330	112.3%
経常利益	7,840	8,249	105.2%	8,316	9,296	111.8%
当期利益	5,774	5,906	102.3%	6,019	6,645	110.4%

27

©TALUNG Laboratories, Inc.

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

株主還元

- 現時点では2024年8月13日に公表した配当予想からの変更なし
- 配当性向30%程度に加えて、10円の周年記念特別配当を実施予定

経営環境の変化に対応すべく、企業体質の強化及び将来の事業環境を勘案したうえで、株主に対して配当性向30%程度の安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針であります。更に通常の配当政策に加え、業績や財務状態を総合的に勘案の上、周年記念等にあたっては記念配当も実施していく方針であります。

(円、%)	中間配当	期末配当	年間配当	配当性向	備考
2024/6期	6.00	21.75 ^{*1}	27.75 ^{*1}	48.1%	東証スタンダード市場への上場を記念して、1株当たり11円10銭の特別配当を実施
2025/6期 (予想)	6.00	22.00 ^{*2}	28.00 ^{*2}	46.8%	当社設立10期目を迎えるため、期末に1株10円00銭の周年記念特別配当を実施予定

^{*1}: 1.5%、中間配当11.10円
^{*2}: 1.5%、法人設立10周年記念配当10.00円を予定

28

©TALUS Laboratories, Inc.

こちらは、株主還元の方針についてご説明したのですが、2024 年 6 月期決算説明資料から再掲したものであり、株主還元の方針は据え置いております。

当社は配当性向 30% 程度を目安として、安定的・継続的な利益還元を実施していく方針ですが、2025 年 6 月期はグループ再編後の当社設立から 10 期目を迎えることから、記念として 1 株当たり 10 円の記念配当を実施する予定です。

これにより、2025 年 6 月期が業績予想どおりに推移した場合には、記念配当込みで増配の形で、株主の皆様へ利益を還元できるものと考えています。

直近の投資案件 KINS社 会社・案件概要

会社概要		案件概要
名称	株式会社KINS	・ 出資内容：C種優先株の引受 ・ 出資額：非開示 ・ 持株比率：非開示
CEO	下川 楓	
事業内容	マイクロバイオームに関する研究及び製品開発・販売	
強み・特徴	・ 高い予防/介入プロダクト開発力 ・ D2Cビジネスのノウハウ ・ クリニック運営を軸とした臨床研究やPoC ・ KINSブランドのロイヤル顧客からの検体収集 ・ 疾患と細菌叢の関連性研究の実施 ・ 独自菌のライブラリ	提携の狙い
設立年月日	2018年12月	目的：慢性疾患領域におけるマイクロバイオームを用いた検査サービス及び予防/介入プロダクトの開発、販売 KINS社への期待：予防/介入プロダクト開発、運営クリニックでのPoC タウンズの貢献：検査サービス/プロダクト開発、医療機関向け販売 短期での取り組み： ✓ KINS社の既存プロダクト×腸内フローラ検査サービスの開発 ✓ コンパニオンアニマル向けの歯周病検査プロダクトの開発 中・長期での取り組み： ✓ 婦人科および産科における検査及び介入プロダクトの共同開発 ✓ コンパニオンアニマル向けの腸内フローラ検査サービスの開発 ✓ 糖尿病、がん、認知症等に関する検査及び予防プロダクトの開発
資本金	5,000万円	
従業員数	58名（正社員のみ）	
所在地	東京都江東区新木場一丁目17番8号3階	

29

©TALUS Laboratories, Inc.

こちらは、直近のトピックスとして資本業務提携先 3 社について、実行順にご紹介しています。いずれもプレスリリースにて開示しているとおりですが、当社が既存の感染症領域から事業ドメインを拡大するために、戦略的に重要な投資として実行しました。

株式会社タウンズ | 2025 年 5 月 15 日 (木)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

直近の投資案件 Craif社 会社・案件概要

会社概要		案件概要	
名称	Craif株式会社	・ 出資内容：C種優先株の引受 ・ 出資額：非開示 ・ 持株比率：非開示	
CEO	小野瀬 隆一		
事業内容	尿検査によるがんのスクリーニングサービスの提供		
強み・特徴	提携の狙い 目的：慢性疾患領域におけるマイクロRNAを用いた検査サービスの展開 Craif社への期待：尿中マイクロRNA解析の技術基盤、高度な検査ラボ タウンズの貢献：新検査サービスの開発支援、薬事申請、医療機関への販売、学術面でのサポート等		
設立年月日	2018年5月	短期での取り組み： ✓ Craifの既存製品の医療機関向け販売、薬事申請支援	
資本金	10,000万円	中・長期での取り組み： ✓ 認知症及び他疾患候補向けのマイクロRNA検査の開発 ✓ 新検査サービスのIVD化の検討	
従業員数	81名		
所在地	東京本社、名古屋本社（ラボ）、US（ラボ）		

30

©TALING Laboratories, Inc.

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp